

平成 26 年度 倉吉西高等学校 第三者評価 評価書

【講評】

創立100周年を迎えた歴史と伝統ある倉吉西高校は、「問題発見及び解決能力に優れた人材を育成し、よりよい社会づくりに貢献する」学校づくりを実践している。学ぶことの本質追求や学んだことを生徒自身の生き方・生活に引き付ける取り組みを継続して行っていることは、評価に値する。

特に、「チャレンジグループ活動」や全国レベルの部活動、教職員一丸となった進路指導（キャリア教育）は、同校の大きな特徴である。その背景には、教職員が同じ方向性（ベクトル）を有して実践に取り組むよう、教職員個人の目標設定等において、管理職が丁寧な支援を行っている。また、生徒のさまざまな活躍をPR（校内に新聞記事を掲示する等）するなどして、高い意欲を持って教育・学習活動に取り組めるよう、その環境・条件整備が行われている。

教職員が孤軍奮闘するのではなく、チームとして組織的に職務に従事しているその様相からは、生徒のこれまで以上の学習成果が見込まれるものと、大きな期待が持てる。

以下は、委員会として評価し、今後も継続・発展していただきたい主な事項である。

- ① 校務分掌の「学習企画グループ」が中心となって、生徒が授業で学んだ内容を自分自身の生き方や生活に引きつけて考えるレベルに到達するように授業研究会を通して、生徒が主体となる授業を展開している。
- ② 「チャレンジグループ活動」をコアとした特色ある教育活動を展開している。同活動は、生徒の卒業後の進路選択にまで影響が及ぼされるほど、生徒にとって、知的探究心を養い、個々の進路決定の指針となっている。
- ③ 全国レベルの部活動のさらなる活性化をしていただきたい。
- ④ ステージ3（いわゆる第3学年）、あるいは、校務分掌の「キャリア支援グループ」だけの教職員が進路指導に携わるのではなく、全校レベルの進路指導体制を敷いている。生徒一人につき、サポート/チューターの教職員を貼り付けている仕組みは、生徒にとって心強い。
- ⑤ 学校周辺の清掃活動・あいさつ運動（朝・登校時）をはじめとする「良き生活習慣の確立」の指導を行っている。このことは年度の重点目標に組み込まれており、継続的に実践している。
- ⑥ 校務分掌のいわゆる「部」にあたる「グループ」の機能的・機動的な運営を行っている。学級減、すなわち、教職員減を見据えた校内内部組織の再編による活性化になっている。

一方、以下は、今後改善していただきたい主な事項である。

- ① 生徒自身の生き方や生活に引きつけて学ぶことのできる授業実践や進路指導をさらに充実させる必要がある。生徒が希望する国公立大学の一般入試結果は伸び悩んでいる。AOや推薦入試を利用した入試結果も含め、当校の生徒の資質・能力、教職員の力量であれば、進路の決定にさらなる期待は持てる。
- ② 授業アンケートの構成・実施方法を見直す必要がある。アンケート項目の見直しや実施時期、また、教職員へのフィードバックの方法を再検討する必要がある。
- ③ 教職員の超過勤務状況は教職員間でその状況に違いが大きく、改善する必要がある。
- ④ ③ともかかわるが、部活動の専任顧問体制を構築する必要がある。具体的には一部教職員の複数顧問制を見直す必要がある。
- ⑤ 分掌組織と学校教育目標との関連性を意識した組織運営体制を構築する必要がある。
- ⑥ 教職員研修・校内授業研究との関連性を意識し、教職員個人の学びでもそれが他の教職員にも還元できるような仕組みを構築する必要がある。
- ⑦ 学校防災計画や危機管理マニュアル等を作成するとともに教職員や生徒の危機管理意識の日常化を図る取組を行う必要がある。
- ⑧ 地元中学校等をはじめとする地域社会との連携事業の見直し・実施を図る必要がある。